

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
平塚・大磯・二宮地域	平塚市、大磯町、二宮町	平成20年度～平成26年度	平成20年度～平成26年度

1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指 標	現状(割合1) (平成21年度)	目標(割合1) (平成27年度)A	実績(割合1) (平成27年度)B	実績B /目標A	
排出量	事業系 総排出量	19,656 t	18,674 t (-5.0%)	22,556 t (14.8%)	120.8%
	1事業所当たりの排出量	1.58 t	1.50 t (-5.1%)	1.81 t (14.6%)	120.7%
	家庭系 総排出量	93,308 t	88,796 t (-4.8%)	82,165 t (-11.9%)	92.5%
	1人当たりの排出量	216.8 kg/人	195.5 kg/人 (-9.8%)	188.4 kg/人 (-13.1%)	96.4%
合 計	事業系家庭系総排出量合計	112,964 t	107,470 t (-4.9%)	104,721 t (-7.3%)	97.4%
再生利用量	直接資源化量	10,434 t (9.2%)	13,723 t (12.8%)	12,348 t (11.8%)	90.0%
	総資源化量	24,522 t (21.7%)	33,282 t (30.9%)	26,899 t (25.6%)	80.8%
熱回収量	熱回収量(年間の発電電力量)	MWh	34,900 MWh	35,759 MWh	102.5%
減量化量	中間処理による減量化量	76,179 t (67.4%)	72,014 t (67.0%)	76,458 t (73.0%)	106.2%
最終処分量	埋立最終処分量	12,388 t (11.0%)	2,300 t (2.1%)	1,646 t (1.6%)	71.6%

1 ・排出量は現状に対する割合、その他の指標は排出量に対する割合

・総資源化量は排出量と集団回収量の和に対する割合(集団回収量:平成21年度「125t」、平成27年度(目標)「126t」、平成27年度(実績)「282t」)

(生活排水処理)

指 標	現状(割合1) (平成21年度)	目標(割合1) (平成27年度)A	実績(割合1) (平成27年度)B	実績B /目標A	
総人口	322,851	323,405	317,285	-	
公共下水道	汚水衛生処理人口	261,828	296,948	279,296	94.1%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	81.1%	91.8%	88.0%	95.9%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	0	3,274	2,435	74.4%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	0.0%	1.0%	0.8%	75.8%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	21,998	13,364	11,367	85.1%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	6.8%	4.1%	3.6%	86.7%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	39,025	9,819	24,187	246.3%

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	家庭系ごみの有料化の検討	平塚市 大磯町	実施に向けた検討	平成20年度～ 平成26年度	<p>(平塚市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に「廃棄物対策審議会」から提出された「家庭系ごみの有料化について」(提言)を受けて、庁内で検討を行った。 <p>(大磯町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おおいそ廃棄物減量化等推進員会議」の中で、有料化による町民への影響、ごみ排出量の変化等について情報交換を実施した。
	12	厨芥類の水切りの徹底	平塚市 大磯町 二宮町	水切り徹底の推進、生ごみ堆肥化容器・装置の普及啓発	平成20年度～ 平成26年度	<p>(平塚市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「平塚市ごみ減量化推進員会」を通じて「ごみ減量化だより」を発行し、「生ごみの水切り」の啓発を実施した。 <p>【生ごみ処理機の斡旋台数】 計画期間中の累計 (電動：258台、非電動：640台)</p> <p>(大磯町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 町広報等により「生ごみの水切り」の徹底など、生ごみの減量化の周知に努めるとともに、引き続き、生ごみコンポスト容器及び、電動生ごみ処理機の普及啓発に努めた。なお、平成26年度に電動生ごみ処理機の補助金額を最大6万円に引き上げ、補助制度の充実を図った。 ごみのダイエツトモニターとして「キエーロ」、「ミラコンボ」を試験的に使用していただき、新たな生ごみ減量化策として情報収集、周知を行った。 <p>【生ごみ処理機の斡旋台数】 計画期間中の累計 (電動：225台、非電動：332台)</p> <p>(二宮町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「二宮町ごみ減量化推進協議会」、「二宮町地域環境推進員会議」、「ごみゼロキャンペーン」、「環境づくりフォーラム展」、「湘南にのみやふるさとまつり」において、水分もうひとしぼりの啓発等を実施するとともに、生ごみ処理機購入費補助金のPRを行った。 <p>【生ごみ処理機の斡旋台数】 計画期間中の累計 (電動：110台、非電動：343台)</p>

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	13	事業系ごみ処理手数料の見直し・ルールづくり等	平塚市 大磯町 二宮町	処理手数料の適正な見直しによる排出抑制	平成20年度～平成26年度	(平塚市) ・平成22年度にごみ処理手数料の改定を実施した。 ・平成24年度に「廃棄物対策審議会」から提出された「一般廃棄物の処理手数料等の改定について」(答申)に記された、「事業者に対するごみ等の手数料は、排出者責任を明確にするため処理費用に見合った額とすることが必要である。」との意見を受けて手数料の見直し検討を行った。 ・優良な事業系一般廃棄物収集運搬許可業者の育成を目的に、度重なる不適切な搬入を繰り返す許可業者に対しては、搬入の許可取消し等の処分を課せるよう、条例改正を見据えた検討を行った。
						(大磯町) ・事業系一般廃棄物の平塚市への直接搬入に伴い、平塚市のごみ処理手数料との均等化を図るため平成25年度に事業系ごみの処理手数料の改定を実施した。
						(二宮町) ・平成20年度にごみ処理手数料の改定を実施するとともに、平成21年度には事業系ごみの指定袋の導入を実施した。 ・全収集運搬許可事業者から事業者の排出量の報告を受け、許可事業者収集から事業系ごみ袋による排出に切り替えた排出事業者の把握を行った他、工業団地内における不適正排出事業者への警告ステッカーによる指導啓発を行った。
	14	資源化品目の拡大	平塚市 大磯町 二宮町	厨芥類や剪定枝の資源化の方策の検討	平成20年度～平成26年度	(平塚市) ・平成27年10月の「二宮町ウッドチップセンター」の稼働開始に向けて、市内部で「剪定枝」資源化の検討や調整を行った。 ・「厨芥類」については、1市2町で検討した結果、「厨芥類資源化施設」の整備中止に合意した。
						(大磯町) ・平成27年10月の「二宮町ウッドチップセンター」の稼働開始に向けて、「剪定枝」資源化の検討や調整を行った。 ・平成27年4月からの「剪定枝」の分別方法の変更を広報や説明会を通して周知し、「二宮町ウッドチップセンター」への搬入体制づくりを実施した。 ・「厨芥類」の資源化については、「中間処理システム等に与える影響」、「生ごみ分別の精度」、「環境負荷の低減効果」、「経済性」、「実効性」の観点から検証を行った結果、施設整備の優位性が認められなかったため、大磯町に計画していた「厨芥類資源化施設」の整備を中止した。
						(二宮町) ・平成27年10月からの「二宮町ウッドチップセンター」の稼働開始に向け、「剪定枝」の分別収集区分の変更に係る調整を実施した。 ・「厨芥類」については、1市2町で検討した結果、「厨芥類資源化施設」の整備中止に合意した。

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	15	分別排出の徹底	平塚市 大磯町 二宮町	各種市民団体との協力体制、パトロール強化	平成20年度～平成26年度	(平塚市) ・家庭系ごみについては、ごみステーションに不適正な排出がされた場合、警告ステッカーを貼付し指導を実施した。 ・事業系ごみについては、多量排出事業者への立入調査時に不適切な点を指示した。また、「高効率ごみ発電施設」への搬入時、不定期で搬入物の展開検査を実施した。
						(大磯町) ・ごみの種類別の警告シールによるルール違反ごみへの警告、集積場所への看板を設置し、分別排出を徹底した。
						(二宮町) ・平成27年度からの広域搬入開始に向け、分別収集区分の変更に係る各処理施設との調整を行った他、「二宮町ごみ減量化推進協議会」の協力を得て町内各地区への地域説明会等を実施し、分別排出徹底について協力をお願いした。 ・また、不適正排出に対しては、警告ステッカーによる指導啓発を行った他、四半期毎に事業系ごみ袋使用状況調査を行い、指導を実施した。
	16	容器包装廃棄物の共同処理	平塚市 大磯町 二宮町	平塚市リサイクルプラザでの共同処理による資源化	平成20年度～平成26年度	(平塚市) ・平成25年4月から大磯町の「容器包装プラスチック」を受入して共同処理を開始した。
						(大磯町) ・平成25年4月から「リサイクルプラザ」へ「容器包装プラスチック」の搬入を開始した。 ・「容器包装プラスチック」の分別排出及び資源化について、広報やホームページで継続的に周知啓発を行い、分別精度の向上を図った。
						(二宮町) ・平成30年4月から大磯町に整備される「リサイクルセンター」への広域搬入開始に向け、「容器包装プラスチック」及び「ペットボトル」の分別収集区分の変更に係る調整を実施した。
	17	ごみ減量化・資源化の推進	平塚市 大磯町 二宮町	ごみ減量化・資源化の制度の推進	平成20年度～平成26年度	(平塚市) ・「ごみ減量化・資源化協力店」への登録の普及を実施した。また、登録店にはステッカーを表示してもらい、包装の簡素化、買い物袋の持参の推進に協力いただいた。
						(大磯町) ・平成8年度に「ごみ減量・リサイクル協力店」を設置し、現行制度を継続して実施した。 ・文化祭等のイベントに参加し、生ごみ処理機の啓発を行った。 ・「キエーロ」、「ミラコンボ」のモニター制度を実施した。
						(二宮町) ・町商店連合協同組合の協力を得てエコポイントカードによる買い物袋の持参等の推進を実施した。

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	18	普及啓発事業	平塚市 大磯町 二宮町	環境セミナー・講習会の開催	平成20年度～ 平成26年度	<p>(平塚市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会の回覧板を利用して、「平塚市ごみ通信」を年3回発行した。 「平塚市ごみ減量化推進委員会」と協働して啓発活動を実施した。 「一般家庭での生ごみ処理推進講習会」の実施にあたっては市民と協働し、住民の意識向上に努めた。 <p>(大磯町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おおいそ廃棄物減量化等推進員交流会」を開催し、ごみの減量、資源化に対する意識向上、知識の習得に役立てることに取り組んだ。 町広報等により3R等、ごみの減量化・資源化策の啓発を実施した。 <p>(二宮町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 町広報紙において環境に関する様々な啓発記事を定期的に掲載するとともに、毎月のごみの削減状況について報告を行った。 また、「環境づくりフォーラム事務局」と共催で「環境づくりフォーラム展」を開催し、環境をテーマとした様々な講演会を開催した。
	21	分別区分の統一化	平塚市 大磯町 二宮町	可燃ごみ、資源ごみ、容器包装廃棄物の分別区分の統一	平成20年度～ 平成26年度	<p>(平塚市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会の回覧板を利用して、「平塚市ごみ通信」を年3回発行し、分別区分の徹底を図った。 「平塚市ごみ減量化推進委員会」の活動においても分別の徹底を目標に掲げ、各地区の公民館まつり等で啓発を実施した。 収集日カレンダーの裏面を用いて啓発を実施した。 分別収集区分の統一に向けて名称変更等の検討を行った。 <p>(大磯町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 分別収集区分の統一に向けて、名称変更等の検討及び変更を実施した。 <p>(二宮町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度からの広域搬入開始に向け、分別収集区分の変更に係る各処理施設との調整を行い、ごみガイドブック等を作成した。
	22	多量排出事業者への指導の徹底	平塚市 大磯町 二宮町	減量化・資源化等の指示、減量化計画書の提出	平成20年度～ 平成26年度	<p>(平塚市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全収集運搬許可事業者から事業者の排出量の報告を受け、多量排出事業者を把握した。全多量排出事業者から減量化等計画書を収受して状況を把握するとともに、提出を指導する中で事業者にごみへの関心を持たせた。また、現地確認を実施し、事業者から指摘事項への報告書を収受し、適正処理を促進した。 多量排出事業者への現地確認時に不適切な点を指示した。また、「高効率ごみ発電施設」への搬入時、不定期で搬入物の展開検査を実施した。 <p>(大磯町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多量排出事業者と減量化計画提出指導事業者数は把握していないが、直接施設へ持ち込む排出事業者に対しては、分別の徹底と減量化・資源化の徹底について周知に努めた。 <p>(二宮町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全収集運搬許可事業者から事業者の排出量の報告を受け、多量排出事業者を把握するとともに、多量排出事業者に減量化計画書を提出させることで指導を行った他、不適正排出事業者には警告ステッカーによる指導啓発を行った。

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
処理施設の整備に関するもの	1	高効率ごみ発電施設整備事業	平塚市	施設整備工事	平成22年度～平成25年度	(平塚市) ・「高効率ごみ発電施設」の整備工事を実施した。 ・平成22年5月～平成25年9月の工事期間を経て、平成25年10月から稼働を開始した。
	2	リサイクルセンター整備事業 (解体工事含む)	大磯町	施設整備工事	平成27年度～平成29年度	(大磯町) ・「リサイクルセンター」整備に係るごみ処理施設の解体工事を実施した。 ・「リサイクルセンター」の整備運営について実施方針を定め、DBO方式として進めることから特定事業の選定を公表し、事業者選定手続きを行った。
	3	剪定枝資源化施設整備事業	二宮町	施設整備工事	平成25年度～平成27年度	(二宮町) ・平成27年10月からの「二宮町ウッドチップセンター」の稼働開始に向け、整備工事を実施した。なお、設計にあたっては自主基準値を設定した。
	4	中継施設整備事業 (解体工事含む)	大磯町	施設整備工事	平成27年度～平成29年度	(大磯町) ・「中継施設」整備に係るごみ処理施設の解体工事を実施した。 ・「リサイクルセンター」の整備運営について実施方針を定め、DBO方式として進めることから特定事業の選定を公表し、事業者選定手続きを行った。
	5	浄化槽設置整備	平塚市 大磯町	浄化槽整備工事	平成20年度～平成26年度	(平塚市) 【計画期間中の整備数：13基】 (大磯町) 【計画期間中の整備数：8基】
	6	平塚市し尿処理施設解体事業	平塚市	施設解体工事	平成22年度	(平塚市) ・「し尿処理施設」の解体工事を実施した。
	7	大磯町し尿処理施設改修事業	大磯町	施設改修工事	平成20年度～平成21年度	(大磯町) ・「し尿処理施設」の改修工事を実施した。
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	高効率ごみ発電施設整備事業の計画支援	平塚市	地質等調査、環境影響評価、PFI等アドバイザー	平成20年度～平成21年度	(平塚市) ・「高効率ごみ発電施設」の整備に伴い、地質等調査、環境影響評価、PFI等アドバイザーの各計画支援事業を実施した。
	32	リサイクルセンター整備事業の計画支援	大磯町	地質等調査、生活環境影響調査、PFI導入可能性調査、PFI等アドバイザー又は基本計画・発注仕様等作成、既存施設解体前土壌汚染概況調査等既存施設解体工事設計	平成25年度～平成27年度	(大磯町) ・「リサイクルセンター」施設整備に伴い、生活環境影響調査、PFI導入可能性調査、PFI等アドバイザー業務委託等、各種調査を中継施設と一体的に実施した。 ・「リサイクルセンター」の整備運営について実施方針を定め、DBO方式として進めることから特定事業の選定を公表し、事業者選定手続きを行った。
	33	剪定枝資源化施設整備事業の計画支援	二宮町	地質等調査、生活環境影響調査、PFI導入可能性調査、PFI等アドバイザー	平成24年度～平成25年度	(二宮町) ・「二宮町ウッドチップセンター」の整備に伴う生活環境影響調査、PFI導入可能性調査、PFI等アドバイザー等、各種調査を実施した。
	34	中継施設整備事業の計画支援	大磯町	地質等調査、生活環境影響調査、PFI導入可能性調査、PFI等アドバイザー又は基本計画・発注仕様等作成、既存施設解体前土壌汚染概況調査等既存施設解体工事設計	平成25年度～平成27年度	(大磯町) ・「中継施設」の整備に伴い、生活環境影響調査、PFI導入可能性調査、PFI等アドバイザー業務委託等、各種調査を「リサイクルセンター」と一体的に実施した。

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績	
その他	41	再生利用品の需要拡大事業	平塚市 大磯町 二宮町	焼却残渣の資源化の検討	平成20年度～平成22年度	(1市2町) ・新設する「高効率ごみ発電施設」から発生する「焼却残渣(灰、炉下不燃物)」の資源化方法の検討を行った。	
				厨芥類・剪定枝の資源化の検討	平成20年度～平成26年度	(平塚市) ・平成27年10月の「二宮町ウッドチップセンター」の稼働開始に向けて、市内部で「剪定枝」資源化の検討や調整を行った。 ・「厨芥類」については、1市2町で検討した結果、「厨芥類資源化施設」の整備中止に合意した。 (大磯町) ・平成27年10月の「二宮町ウッドチップセンター」の稼働開始に向けて、「剪定枝」資源化の検討や調整を行った。 ・平成27年4月からの「剪定枝」の分別方法の変更を広報や説明会を通して周知し、「二宮町ウッドチップセンター」への搬入体制づくりを実施した。 ・「厨芥類」の資源化については、「中間処理システム等に与える影響」、「生ごみ分別の精度」、「環境負荷の低減効果」、「経済性」、「実効性」の観点から検証を行った結果、施設整備の優位性が認められなかったため、大磯町に計画していた「厨芥類資源化施設」の整備を中止した。 (二宮町) ・平成27年10月からの「二宮町ウッドチップセンター」の稼働開始に向け、「剪定枝」の分別収集区分の変更に係る調整を実施した。 ・「厨芥類」については、1市2町で検討した結果、「厨芥類資源化施設」の整備中止に合意した。	
	42			廃家電のリサイクルに関する普及啓発	関連団体や小売店等との協力による普及啓発	平成20年度～平成26年度	(平塚市) ・「平塚市ごみ通信」、「ごみ分別表」を全戸配布することで、「廃家電リサイクル」の普及啓発を実施した。 (大磯町) ・「ごみ分別表」を全戸配布することで、「廃家電リサイクル」の普及啓発を実施した。 (二宮町) ・町内の「家電リサイクル協力店」の協力を得て、「家電リサイクル法対象機器」の回収による資源化を図った。
	43			不法投棄対策	パトロール強化等による不法投棄防止	平成20年度～平成26年度	(平塚市) ・年4回の神奈川県との合同パトロールの実施及び不法投棄防止看板の設置による防止活動を実施した。 (大磯町) ・年4回の神奈川県との合同パトロールの実施及び不法投棄防止看板の設置による防止活動を実施した。 (二宮町) ・毎週月曜日の臨時雇用職員による不法投棄パトロール及び不法投棄物の回収に加え、年4回の神奈川県との合同パトロールを実施した他、不法投棄防止看板の設置による防止活動を実施した。
44	災害時の廃棄物処理に関する事項	地域内及び周辺地域との連携体制の構築	平成20年度～平成23年度	(1市2町) ・平成24年3月に策定した「ごみ処理広域化実施計画」において、災害時の対応として、各市町の災害廃棄物処理計画に従い災害廃棄物等の処理・処分を行い、広域処理施設の枠組みを超え、相互利用を行う等柔軟な対応を検討することを定めた。			

3 目標の達成状況に関する評価

(ごみ処理)

- ・排出量
(事業系) 目標に対する実績は120.8%で、目標を達成できなかった。景気の緩やかな回復により経済活動が活発化し、事業系可燃ごみの排出量が増加していることに加え、数件の多量排出事業者で、排出量が減少していないことが要因であると考えられる。
- (家庭系) 目標に対する実績は92.5%で、目標を達成した。これは、減量化に向けた各種施策の効果によるものであると考えられる。
- ・再生利用量
直接資源化量の目標に対する実績は90.0%、総資源化量の目標に対する実績は80.8%で、目標を達成できなかった。厨芥類の資源化を見込んでいたが、計画の中止により、資源化しなくなったことと、剪定枝の資源化については計画量を見直したことが要因として考えられる。
- ・熱回収量(ごみ発電量)
目標に対する実績は102.5%で、目標を達成した。「高効率ごみ発電施設」が平成25年10月から稼働を開始し、ごみの焼却による発電事業が実施されている。
- ・減量化量
目標に対する実績は106.2%で、目標を達成した。
- ・最終処分量
目標に対する実績は71.6%で、目標を達成した。「焼却残渣(灰、炉下不燃物)」の資源化を実施していることが要因であると考えられる。

(生活排水処理)

目標を達成できなかったのは、目標数値を設定した当初の予測よりも、社会情勢が急激に変化したことや、総人口が見込みよりも減少していることが一因であると考えられるが、公共下水道や農業集落排水処理施設等の整備が着実に実施されたことにより、汚水衛生処理人口の増加及び未処理人口の減少につながっていると考えられる。今後は、一層の公共下水道の整備を推進し、併せて接続率の増加を促進するとともに、公共下水道未整備地区における合併処理浄化槽の普及促進に努める。

(都道府県知事の所見)

ごみ処理については、地域計画期間内(平成20年度～平成26年度)において、生ごみの水切りの啓発、ごみステーションでの分別排出の徹底、環境セミナーや講習会の開催などの各種施策を行い、住民の知識の習得及び意識向上を図り、家庭系排出量の目標を達成することができた。

また、平成25年度には、高効率ごみ発電施設を整備し、熱回収量及び減量化量の目標を達成した。

特に、最終処分量については、これまで最終処分を行っていた焼却残渣を同施設の稼働に併せて資源化することで、目標を大きく上回った。

一方で、再生利用量については、直接資源化量が10,434 t(平成21年度)から12,348 t(平成27年度)、総資源化量が24,522 t(平成21年度)から26,899 t(平成27年度)と増加しているものの、いずれも目標を下回った。これは、計画していた厨芥類資源化施設の整備を中止したことに起因するが、厨芥類資源化施設の代わりに二宮町ウッドチップセンター及び大磯町リサイクルセンターを整備することとしたため、改善は図られていると認められる。

なお、事業系排出量については、19,656 t(平成21年度)から22,556 t(平成27年度)と増加し、目標を達成することが出来なかったため、別途改善計画を立て、今後は改善計画をもとに、目標達成に努められたい。

浄化槽設置基数は着実に増加しており、循環型社会推進交付金の十分な活用により、生活排水処理の改善に寄与したと考える。

今後も神奈川県生活排水処理施設整備構想を踏まえて、地域全体における生活排水処理率の更なる向上を目標として、積極的に浄化槽等の設置を図られたい。